



(3) 快適な日常が実感できる環境

生活水準の向上や余暇時間の増大により、人々の価値観が多様化し、これまでの利便性や経済性を超えて、生活の質を重視する時代に変化してきています。

とりわけ、地域の個性が活かされたまちなみや緑と親しむことができる公園など、アメニティ^{*1}資源が保全・確保され、活かされたまちは、快適で住み良い環境であるとともに、地域のアイデンティティ^{*2}を高め、訪れる人々にとっても魅力となります。

そこで、草花や虫の音など四季の移ろいが実感できるとともに、星が見える夜空など、人と自然、都市と自然が溶け合い、住んで、心がやすらぐ環境づくりに向けた施策を推進します。



(※1) アメニティ：一般的には「快適環境」と訳されるが、「本来の環境、環境のあるべきすがた」とも解釈される。

(※2) アイデンティティ：本来、「自己が環境や時間の変化にかかわらず、連続する同一のものである」との哲学分野の用語であつたが、近年、汎用語となり、「主体性」と解されることが多い。